

した。また鹿児島に行くとき必ず歓迎会を開いていたのでした。早く亡くなられたのは速記教育のため非常に大きな損失であってまことに惜しい先生でした。

それから、坂田東助さんです。この方は現在八十一歳（平成三年）ですがお元気です。この方は私が大正十四年三月、京都にあった第十六師団司令部で講習したとき受講しておられ、すっかりとりこになったと言われる人でした。昭和二年、朝鮮京城（今のソウル）のシンガーミシン会社の邦文速記者として勤められたのを皮切りに、同盟通信社の京城支社の通信部長、終戦時は同社の全州支局長をしておられ、終戦後は本籍地岩手県に帰らず、鹿児島市役所の議会事務局に勤められたのでした。市役所をはじめ、市関係の各所で講演させていただいたり、鹿児島に行くたび大変お世話になったものでした。定年ご退職後は速記界の大御所として、腹心の塩崎大三さんと相談して速記士会をつくられ、お二人で会長、副会長をしておられるのですが、これは速記界の模範だといわれたものでした。最近鹿児島に行ったのは昭和六十三年六月でした。十四日の日曜には観光バスで市内を見学させていただき、夜は楽山荘という一級の温泉ホテルで歓迎会を開いていただき、会がすんだらそこにいっしょに泊めてもらい、温泉にひたりながら肩を流しあったものでした。歓迎会に出席された人達はみな旧知の間柄で坂田さん、塩崎さんお二人をはじめ、市社会事業協会の池畑秀人さん、速記士会事業部専務の荒武祐一さん、県議会事務局の黒木政治さん、南日本新聞社の寺田幸治さん、恵畑 穰さん、それに鹿児島女子高校速記部顧問の山元與一先生方でした。